

おらほの会社

株式会社共同地質センター の巻



松尾 栄一

はじめに

2021年10月1日 岩手県盛岡市の「株式会社共同地質コンパニオン」と北上市の「株式会社東北地質センター」が合併し、「株式会社共同地質センター」がスタートしました。



会社概要

当社は1975年6月創立、2021年10月設立し、創業より46年にわたり地域密着と顧客の様々なニーズにお応えすることを目標に活動して参りました。

合併によって自社稼働マシン台数13台、技術員30余名と東北でも有数の規模を誇る会社となりました。一般ボーリング調査から海上・水上ボーリング、急傾斜斜面での調査など、大人数ならではの機動力とスピーディーな仮設を特徴としています。

地質調査技士17名を擁し、ボーリングオペレーターのスぺシャリストとして認定されたボーリングマイスター(匠)も2名在籍しています。

本社を含む営業所は岩手県内のみですが、多くの元請け企業様より技術力を評価され、東北6県のみならず全国各地に仕事の場を設けさせて頂いております。

業務内容

当社は、調査部門、仮設部門、工事部門、試験部門の4つの部署に分かれて業務を行っておりますが、今回は私の所属する北上事業部についてご紹介します。

北上事業部の業務の強みは水上ボーリング調査と山地での調査にあります。

水上ボーリング調査では水深や水流の状況に応じて単管パイプによる足場、フロート台船足場、セップ台船足場を使い分けます。

単管パイプによる足場は、水深3~4m程度までの比較的流れの緩やかな場所に適しています。



釜石市鶏住居川水門調査

フロート台船足場は、流れのない穏やかな水域での調査に適しています。浮体をアンカーロープで留めているので、強風に弱いのが難点です。



四十四田ダムでの堆積物調査

セップ台船足場は4本の脚を海底に立てて固定する足場です。軟質な粘土が厚く堆積する地盤や海底が捨石で傾斜している地盤は苦手とします。当社の所有する台船は水深3~最大12mまで対応可能です。



新潟県佐渡島両津港での調査

昨今の自然災害の増加に伴い、砂防ダム建設やため池健全度解析の為の調査も増加しています。特に砂防ダムは道路のない狭い沢筋に計画される場合がほとんどで、ボーリング機材の搬入にはモノレールあるいは簡易索道の仮設が必要となります。



モノレールによる資材運搬

特殊な箇所での調査としては、ダムの監査廊内でも調査を行っています。搬入には機械を解体し、台車に乗せてウインチで引上げポイントまで運搬しました。



ダム監査廊内での調査

社内行事

社員相互の親睦とコミュニケーションを図るため、毎夏にBBQ大会、冬には花巻温泉等の温泉ホテルで忘年会を行っています。

また、2年に1度、社員旅行で国内遠方や海外旅行にも行っています。社員旅行には社員の家族も同行して、懇親しています。

このような行事により、社員のオン・オフの切替えが上手くできる職場環境が作られていると思います。



2018社員旅行 inベトナム

資格取得の応援

業務上必須の資格である玉掛け・小型移動式クレーン・足場の組立て等作業主任者は、会社で早期取得を奨励するとともに資格手当も支給されます。また、ボーリングマシン・不整地運搬車の操縦については社内教育を行うことにより、より安全な作業を行えるよう環境作りをしています。

これからのオペレーターに必須の地質調査技士資格取得に向けた社内勉強会も実施しています。



不整地運搬車社内特別教育

おわりに

震災復興事業関連の調査も一段落し、近年は多発する豪雨災害などの自然災害に対する減災・防災のための調査も多く発注されています。当社が長年培ってきた技術力とチームワークをもって、皆様のお役に立ちたいと思いますので今後ともよろしくお願いたします。

